

R 4 1 学期 終業式

7月20日（水）

みなさん、おはようございます。

今日は1学期の終業式、1学期をよく振り返ってまとめをする日です。みなさん一人一人が、学習や運動、また失敗したときなどもふくめて、かならずがんばって、成長しているはずですよ。そんながんばることができた自分を思い出して、自信をもってください。

明日から、42日間の夏休みが始まります。夏休み中は、健康に気をつけて、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

さて、今日は、夏休みに好きなことに熱中して取り組んだことが、世界的に有名な本で紹介されたという、埼玉県の小学生のお話をします。

埼玉県に住む、当時小学校4年生の柴田亮さんは、自分の家の庭の木にカブトムシが集まってくるのを見つけました。「カブトムシは夜行性なのに、なぜ、庭の木には、昼間になってもカブトムシがいるのだろう？」と不思議に思い、夏休みの間、ずっと庭の木に来るカブトムシの数を数えていたそうです。

深まるなぞをとくために、図書館でたくさんの本を借りました。その中のある本に、ヒントが書いてありました。その本を書いた山口大学の先生に連絡を取ると、「理由は分からないけれども、夜のデータや、一匹ずつのカブトムシのデータをとったら、おもしろいと思うよ。」とアドバイスをもらったそうです。

そこで、柴田さんは、次の年の5年生の夏休みに、庭に来るカブトムシの背中に、アクリル絵の具でしるしをつけて、一匹ずつのデータをとり続けました。時には、家族に協力をしてもらい、真夜中にも観察をしたそうです。

その結果、おどろくほどの量のデータが集まりました。その報告を受けた大学の先生は、「これは新しい発見だ！世界に発信しよう！」と、柴田君と二人の名前で、論文を発表しました。

すると、その論文は、世界的に有名な冊子に紹介されるまでになりました。論文を読んだ有名な研究者は、データの多さと正確さに、「これだけの記録を集めた柴田さんは、とてもすばらしい！」といったそうです。

この研究の真相は、まだ解明できていないそうですが、柴田さんは、これからも観察を続けていくそうです。

夏休みは1か月以上あります。毎日を何となく過ごしているのと、柴田さんのように、好きなことにいっしょうけんめい取り組む毎日を過ごすのとでは、同じ時間でも、全く違った夏休みになりそうですね。

みなさんも、取り組みたいことを見つけて、そのことに夢中になるなど、楽しく充実した夏休みを送ってほしいと思います。

2学期に、また元気な姿で会えることを楽しみにしています。

以上で、お話を終わります。